

私の「祭り」の思い出

2022年10月12日

太田隆次

子供時代からの祭りの思い出です。

祭りの思い出〈1〉—国民学校時代—

私は岡山で生まれ、2歳の時、満洲国奉天市に一家で移住し、6才の当時、九州の小倉市に住んでいた伯母宅に養子として引き取られ、小倉城の堀のほとりにある「中島国民学校」（今は中島小学校）に入学しました。近くに「昭和市場」という市場がありました。

7才の頃、生駒山の大阪側の麓の日下村の日下国民学校に転学しました。当時、国の政策で満洲移住の日本人の言語は、すべからく標準の日本語と定められていましたから、曲りなりにも私は標準語に近い日本語を話していたようです。日下国民学校の生徒達の言葉は慣れるまで理解出来ませんでした。

ある日、学校から帰宅後、国語の読み方の復習で、猿田彦（さるたひこ）の釣りのくだりを朗々（？）と、声を出して読んでいた時、家の近くで隠れて盗み聞きしていた数人の悪友たちが、私の口真似をして笑いながら逃げて行きました。仲間はずれになるのが嫌で、それから1年もたたないうちに私の言葉も立派な関西弁（日下弁？）になりました。

さて「祭り」の話です。皆さんは「村祭り（むらまつり）」という唱歌を歌わされたことがありますか？下をクリックしてお聴きください。

この唱歌は4年生の時、歌わされました。

https://www.youtube.com/watch?v=_QrHUMpYJ0I

鎮守の祭りのいわれ：

古代より自然には神様が住んでいてどの森にも神が住んでいると信じられてきました。森は神が降りて来る神聖な場所として村の人々が訪ねるようになり。とうとう神の住まいとして全国に「〇〇神社」が出来たそうです。そして神社ごとに色々な名前の「祭り」が出来ました。

神が、天皇の子孫に稲穂を授けたおかげで食べ物が豊かになったので秋の収穫時期に米や作物を奉納しお礼の祭りをするようになったそうです。



先生にあてられて一人一人、皆の前で歌わされたのですが、「ドンドン ヒヤララ ドン ヒヤララ」のくだりでどうしても詰まって歌えない生徒がいて卒業するまで皆によくからかわれていました。所が後年、彼は、東大阪市の市議員に当選して、時々集まる同窓会でも弁舌さわやかなヒーローになっていました。

祭りの思い出（２）—国民学校時代—

菓子祭り

５年生の頃、先生が「たじまもり」の話と歌を教えてくださいました。最初、聞いた時は歌の意味がサッパリ分かりませんでした。菓子祭りの本家の豊岡市の中島神社と歌と故事をご覧ください。

<https://toyooka-cci.jp/tajimamori/>

<https://www.youtube.com/watch?v=czX8-0dmMwc&t=8s>

<https://www.youtube.com/watch?v=ix8W7NfTI3w>

２００５年に妻が亡くなる数年前のことですが、コーラス合唱に興味で通っていた彼女にこの歌のことを尋ねた所、「知らない」というので楽譜と歌詞を持って行き先生に見せたところ、初見でピアノを弾いてくれ、皆の前で歌ってくれたそうです。帰宅して早速歌ってくれて５年生に歌った頃を思い出した次第です。

祭りの思い出（3） — アメリカで見たハロウィン

カボチャなどの化け物や人の仮装行列がシンボルの10月31日のハロウィンをアメリカに住んでいる時に体験しました。

少し解説しますと、ハロウィンは2000年以上も昔の古代ヨーロッパが始まりだと言われています。

当時の古代ヨーロッパには、ケルト族と呼ばれる民族が優勢で彼らの宗教では11月1日が新年の始まりの日でした。新しい1年の幕開けに際し、その前夜である10月31日に前夜祭を行っていました。

その前夜祭の10月31日に、帰ってきた死者の魂が作物を荒らしたり、子どもをさらったりする悪事を防ぐために、仮面をつけたり仮装をして悪霊を追い払い、さらに悪霊が家の中に入らないよう厄払いとして外にカボチャなどの農作物を供え、これが現代のハロウィンの由来になっていると言われています。意図は大真面目のです。日本では脱線して仮装して渋谷を練り歩くのは滑稽であり、残念です。

お化けや魔女に仮装した子どもたちが、「trick or treat！（お菓子をくれないとイタズラするぞ！）」と言いながらお菓子をもらうために家を回るという現代のハロウィンは、昔の厄払いが由来しているのです。孫達もグループで出かけて行き、しこたま戦利品を抱えて帰って来ました。



祭りの思い出(4)

- 北島三郎の「まつり」に日本の祭りの特徴が凝縮されていると言われますので紹介します。
- ご参考までに歌詞(作詞 なかにし れい)を紹介します。作曲者名は北島三郎のペンネームです。
- 平成最後の「第59回紅白歌合戦」でも歌われました。

https://www.youtube.com/watch?v=N87ikbj_1vo

下は歌詞です。

一番の歌詞 (田んぼの農作物がテーマ)

男は祭りを そうさ かついで 生きてきた

山の神 海の神 今年も本当に ありがとう

白い禪(ふんどし) ひきしめた

裸若衆に 雪が舞う

祭りだ 祭りだ 祭りだ 豊年祭り

土の匂いの しみこんだ

倅その手が 宝物

二番の歌詞 (海の大漁がテーマ)

男は祭りで そうさ 男を みがかんだ

山の神 海の神 いのちを本当に ありがとう

船に五色の 旗をたて 海の男が 風を切る

祭りだ 祭りだ 祭りだ 大漁祭り

見ろよ 真っ赤な 陽が昇る 一番船をこげ

締め歌詞（締めくくり）

燃えろよ 涙と汗こそ 男のロマン

俺もどんとまた 生きてやる

これが日本の 祭りだよ

（終わり）